鎌倉ローンテニス倶楽部100周年

テニスミュージアム委員
鎌倉ローンテニス倶楽部会員
越智 和夫

慶応義塾大学庭球部時代の野村祐一氏（左）と熊谷一彌氏

昭和30年代の初めころの御成コートのベンチに座る安部民雄氏（左）と熊谷一彌氏

7面クレーの笛田コートとクラブハウス

名選手や文士が集う華やかなクラブ

『鎌倉ローンテニス倶楽部（鎌倉LTC）』が、今年100周年を迎えました。
1923（大正12）年７月、第1回鎌倉トーナメント（通称“鎌トー”）が、鎌倉海浜ホテルコート、鵠沼東屋コートで開催。その翌年、平岡平右衛門邸内コートで野村祐一が中心になって結成された『湘南社交クラブ庭球部』が前身です。鎌倉LTCは日本人のみによって設立されたパブリッククラブとしては、恐らく日本で最も古いものであると思われます。1927（昭和２）年に３面の「御成コート」が建設され、1931（昭和６）年に鎌倉ローンテニス倶楽部と改称されました。柏尾誠一郎、熊谷一彌、安部民雄、山岸成一、山岸二郎、西村秀雄などの名選手のほか、久米正雄、大佛次郎、小林秀雄、今日出海、田中純、太田四州、橋戸頑鐵など鎌倉文士のほか、海軍軍人や学生なども多く在籍する華やかなクラブだったようです。

第２次世界大戦を乗り越えて

都心から離れた鎌倉のテニスクラブでも、戦時下ではさまざまな苦難に見舞われています。

1932（昭和７）年からクラブの主催大会となった鎌倉テニストーナメントは、1939（昭和14)年から７年間中止になっていますが、この年からテニスボールにも配給制が採用されましたことが要因の一つだったと聞いています。

さらに戦況が悪化すると、1943（昭和18）年には１面のコートは畑にされ、残ったコートの使用も警戒警報、空襲警報が発令されない日曜、祭日のみに限定されたといいます。翌年には、さらに１面が畑となり、1945（昭和20)年４月には実質的な閉鎖を迎えました。

しかし、戦争が終結すると、芋畑にされず守り抜いた１面のコートをもとに有志が集まり復興に着手。会員から寄附を募るなどして３面のコートを修復し、海外から復員してきた人々が順次入会したといいます。

敗戦の傷が癒えてきた1957（昭和32）年ころから、当時の皇太子殿下（現上皇陛下）が、葉山御用邸においでになられる度に、ご自身運転の自動車で鎌倉LTCにいらっしゃるようになりました。会員をお相手にプレーされ、気軽に談笑され、1958（昭和33）年の 第27回鎌倉トーナメントには殿下が出場された記録も残っています。

鎌倉市笛田の地にクラブが移転

地主からの返還要求により御成コートを明け渡し、現在の笛田に新しいコート７面とクラブハウスが完成したのは1982（昭和57）年11月のこと。御成コート時代は３面のコートに対し会員数が400名ほどであったため、新規会員の募集は基本的に凍結状態。しかし、コート数が増えて多くの希望者を受け入れられるようになったことで、新クラブ開設時には会員が600名を越える規模になりました。当時、公営コートやスクールなど市民がテニスを楽しむ環境が整っておらず、人気が高まるテニスをプレーするにはクラブに所属するしかなく、入会希望者はとても多かったようです。

◇　◇　◇

鎌倉LTCのクラブハウスには、熊谷一彌や山岸二郎のラケット、戦前の“鎌トー”が掲載された書籍や写真などの歴史を保存する部屋があります。保管されている昭和30年代初頭のクラブ会報に、「テニスのエチケットについて」という記載があります。

「倶楽部ライフはコミュニティの一種ですから、会員各自はその重要な一核単位であることを自覚し、他会員に不快感を与えるような行動（言動、ゲーム等）を慎み、フェアーなスポーツマンとしての自負を持ち、己には厳しく、他人には寛大、かつ責任を重んじ、長幼の秩序を守ることが会員相互の礼儀であると同時に、倶楽部内の雰囲気を常に楽しくキープしあうことを可能にするファンドであると信じます」（原文のまま）

現在のクラブ運営の基本ともいえる先人の言葉を胸に、今年、私たちは豊かなテニスライフを創造し、「誇らしき倶楽部」を目指す10年ビジョンを作成しました。テニスを楽しむ環境を守り、発展させて次世代へバトンタッチするためには、歴史を守り、伝えていくことも重要なのだと思っています。